

エヴァンゲリウム・カントライ

Evangeliums-Kantorei

〒251-0861 神奈川県藤沢市大庭 5529-8 シャルマンコーポ 404 小山方

Tel. 070-2834-4304

郵便振替 00100-3-21060

「賛美しながら預言する」

「また、ダビデと軍の長たちは、アサフとヘマンとエドトンの子らを奉仕のために取り分け、豎琴と琴とシンバルに合わせて預言する者とした。」

(I 歴代誌 25 : 1)

須田丈夫

ダビデは主の宮に仕える歌い手の働きをレビ人の中に設けました。I 歴代誌 25 章には歌い手たちの働きについて記されています。その中で注目したいのは、歌い手たちは「預言する者」(:1)であったことです。歌い手はレビ族の三つの氏族の中で組分けされましたが、それぞれの長について、「預言するアサフ」(:2)、「賛美しながら預言する彼らの父エドトン」(:3)、「先見者ヘマン」(:5)とされています。先見者は預言者と同じ意味です。彼らは「神のことば」(:5)をもって奉仕する者たちであったことが分かります。

ですから、歌い手たちは、主の宮で、楽器を使いながら歌を歌う奉仕にあたる者たちですが、預言する者、つまり神のみことばを語る奉仕者であったことが分かります。主への礼拝が献げられる場において歌を歌うことには、神のみことばを歌い、人々に伝える役割があったのです。そして、歌い手たちは「主にささげる歌の訓練を受け、みな達人であった」とあります。この箇所の記事から、歌い手の奉仕をダビデが大事にして整え、ま

た、バビロンから帰還したユダヤ人の指導者たちも同じように考えたことが分かります。

このことは教会に受け継がれました。主イエスの弟子たちが賛美の歌を歌ったことがいくつか記されています(マルコ 14:26、ルカ 24:53、使徒 16:25)。パウロは賛美について教え、勧めています(エペソ 5:19、コロサイ 3:16)。このように初代教会においても、キリスト者たちは賛美の歌を歌いました。礼拝においても同様だったでしょう。賛美の歌によって、神様をほめたたえると共に、みことばが人々の心に留まるようにする役割があったことが分かります。

同じことを私たち教会も礼拝において大事にします。礼拝における賛美や賛美の奉仕者が整えられる必要があります。それは、賛美の歌によって、みことばを宣べ伝えるためです。礼拝の宣教は、ことばによってみことばを解き明かし、伝えます。賛美も、歌詞と音楽によってみことばを伝える役割があるのです。カントライも賛美によってみことばを伝えるために仕えています。

(カントライ理事長 長津田キリスト教会牧師)

「聖歌隊」という言葉は、聖書（口語訳）の中では詩篇の中に度々出てくるので、その存在がユダヤ教の時代から礼拝において賛美の大切な奉仕を担っていたことは間違いありません。その後中世のカトリックのミサにおいて、聖歌隊の内容は群を抜いて難しいものとなっていき、司祭たちの単旋律の典礼聖歌とコントラストをなすように複雑で壮大なものに変化していきました。更にルネッサンスの影響を受け、聖書の言葉と結びついてゆくことにより、ジョスカン・デ・プレに代表されるフランコフランドル楽派で合唱音楽はピークを迎えます。この音楽の動きが、宗教改革後の聖書主義音楽の発展の土台となっていきました。シュッツやバッハのモテトやカンタータを聞くと、聖歌隊のレベルがとても高かったこと、現在とは違う教会組織や教育のメソッドの下にあったことが分かります。

『教会合唱集Ⅰ』の前書きに、翻訳・編纂をした岳藤豪希師は「人々は主の福音が伝えられ、主がたたえられるために、さまざまな方法を考えていった。教会の聖歌隊もこのために生まれ、教会の中でなくてはならない存在になった。」と書いています。まさに教会音楽の歴史は聖歌隊の歴史でもあります。

では現状はどうでしょうか。仕事柄、様々な教会の聖歌隊に出会ってきました。多くの教会は悩みつつ手探りで奉仕をしているのです。聖歌隊のある教会ばかりではありません。聖歌隊の奉仕をしたいと願う信徒がいなかったり、少なかったり、あるいは指導者となりうる信徒がいなかったりなど、奉仕者のいない悩み。もう一つはどんな曲を選べばいいのかという問題ではないでしょうか。

その問題の解決の糸口のために考えてみたいと思います。そもそも現在では、聖歌隊がなくても礼拝は成り立ちます。では、現在の聖歌隊の大切な働きとは何でしょうか。一つは音楽による福音の伝道、もう一つは会衆賛美のリードです。

聖歌隊は単なる合唱集団ではありません。その教会の賛美の方向を担って行く存在となるものですから、音楽の賜物を頂いている信徒が多ければ、恵みと言えるでしょう。しかし、それだけでうまくというものではないと思います。他の奉仕と同じです。教会の枝として、祈り合いつつ、みことばに仕えるということではないでしょうか。奉仕者がいない、足りないという悩みには、まず祈ることです。指揮者（指導者）がいないというときには、牧師に相談の上、聖歌隊の希望者で学びの場を求めてみてください。他の教会の教会音楽を学んだ方に指導をお願いするのもいいと思います。聖歌隊が成長するには時間がかかります。しかし、それこそ奉仕の恵みと言えるのではないのでしょうか。

「聖歌隊は二人いれば始められます。」岳藤師は、カントライの練習時に何度もそう言っていました。これは、何を歌えばいいのか、ということの答えになります。

みことばを歌えばいいのです。讃美歌を四声で歌おうと思うから、人数が足りないと思うのです。例えば、説教に合う詩篇を牧師に選んで頂いて、詩編歌をユニゾンで、無伴奏で歌う練習をしてみてください。そのために、詩篇の音読を一緒に揃うまで、何度もしてください。聖書朗読こそ賛美そのものであることを忘れないことです。『岳藤豪希作品集』には、子供でも歌える聖句「みことばのうた」が何曲も載っています。

次にカノン（輪唱）をやってみてください。同じメロディーを何度も一緒に練習し、二声、三声…と分かれていきます。これは多声音楽の入口ですが、ごく簡単なものから難しいものまであります。やさしいものからクリアーして行ってください。和声的な作りのものほど易しいです。前述の『教会合唱集 I』は、このカノンから始まっています。讃美歌 21 にも簡単なカノンが何曲か載っています。聖歌隊の成長にカノンは欠かせません。

カノンに慣れてきたら、三声のモテトに挑戦してください。ここまで来ると、より豊かにみことばが響きます。『教会合唱集 I』はこのような順番で編集されています。もし四声部（S. A. T. B）のメンバーが揃っていたら、讃美歌集をさほど難しくなく歌うことができると思います。多声音楽は四声、五声以上、際限なくありますが、声部が多くなるほど言葉を聞き取るのは難しいです。練習時間が沢山必要なら、少し難しい曲を選びすぎているのかもしれませんが。無理せずコンスタントに奉仕することを目指すと思います。

指揮をする人も同じです。ユニゾンとカノンから振る練習をして行ってください。少人数なら、必ずしも必要はありませんが、始まりや終わり、テンポの設定は誰かがしなければなりません。

歌う前には体をほぐす体操などをすると、音程も取りやすくなり、ブレスも長くなります。練習の度、短く体操をするといいです。具体的な方法は、奉仕者の年齢や状態にもよるので、ここでは記せません。言葉が揃って美しく流れるためには、全身の筋肉の動きが必要なのです。そして、無理に大きな声を出そうとするならば、言葉を聞き取るのが難しくなりますので注意が必要です。

色々なことを申しましたが、賛美に何よりも大切なのは常に聖書を学び、聖書に生きることでしょう。どこの教会に行っても、牧師の聖書朗読を聴くとき心から感動を覚え、いつもそれを確信させていただいています。

「わが主よ、私の唇を開いてください。この口はあなたの誉れを告げ知らせます。」

詩篇 51:17（共同訳）

コロナ禍が去って、それぞれの聖歌隊の奉仕が再開できますようにと願い祈ります。

（エヴァンゲリウム・カントライ指揮者）



エヴァンゲリウム・カントライのホームページをご覧ください。

エヴァンゲリウム・カントライの賛美を視聴することができます。

<https://evangeliums-kantorei.org/index.html>



ホームページのQRコードです。
こちらからもホームページに入れます。
ご利用ください。



事務局から

☆ 活動予定

12月4日(土) 九十九里教会クリスマスコンサート
2022年6月4日(土) 前橋キリスト教会演奏会

* 今後の状況によって変更の可能性がありますので、ご確認をお願いいたします。

☆ 献金 (2021年6月-8月) () 内の数字は件数です。

尊い献げものをありがとうございました。感謝をもってご報告いたします。
(敬称略)

<賛助会>

(教会) 前橋キリスト教会(3)、川越聖書教会(2)、菅生キリスト教会
白根福音教会、拝島バプテスト教会(2)、浦和福音自由教会(3)
東京聖書教会(3)、北栄キリスト教会(3)、長津田キリスト教会
宇都宮聖書バプテスト教会

(個人) 高張美恵子(3)、小林伸二、石川證、今野蓉子、飯島勅・千雍子(2)
佐藤義則、須田丈夫

<献金>

(教会) 湘南ライフタウンキリスト教会(2)
(個人) 団員、匿名

編集後記

聖歌隊について、今回は深く考えさせられました。今回の特集記事の中にあるように、私たちの教会でも悩みつつ手探りで奉仕をしているのが現状です。聖歌隊のあるべき姿を教えてください。感謝でした。それぞれの教会で、賛美を通してみことばが語られますようにお祈り申し上げます。(事務局)